

EU Indicators

欧州経済指標コメント：12月ユーロ圏消費者物価(確報)

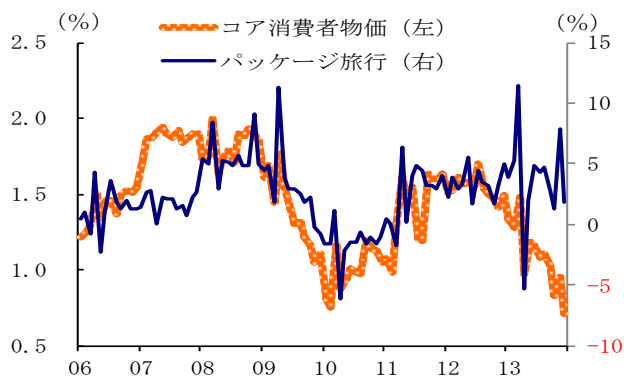
発表日：2014年1月17日(金)

～統計技術的な要因もあるが、物価の基調そのものも弱い～

第一生命経済研究所 経済調査部
 首席エコノミスト 田中 理
 03-5221-4527

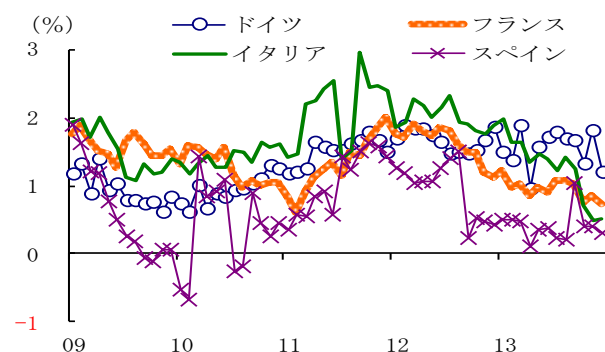
- 16日に発表された昨年12月のユーロ圏の消費者物価の確報値（EU統一基準）は前年比+0.8%と速報値から不変で、前月（同+0.9%）から上昇率が僅かながら縮小した。コア物価も速報値同様に同+0.7%と、統計開始以来の最低水準を更新した。
- 新たに公表されたコア物価の詳細な内訳をみると、前月から上昇率が縮小ないし下落率が拡大した主な項目は、家財道具（同+0.6%→同+0.5%）、輸送サービス（同+2.4%→同+1.4%）、通信機器（同▲10.0%→同▲11.6%）、オーディオ・写真・情報機器（同▲5.2%→同▲5.6%）、娯楽用品・庭・ペット関連（同+1.1%→同+0.9%）、パッケージ旅行（同+7.9%→同+1.8%）、宿泊（同+6.5%→同+0.8%）、理美容（同+0.6%→同+0.5%）、宝飾品（同▲1.0%→同▲1.5%）など。
- このうち最大の攪乱要因となっているパッケージ旅行は、主にドイツでの統計技術的な要因が影響。この点は先のECB会合でドラギ総裁も指摘した通り。さらに、前年同月の裏（前年の上昇率に断層が生じていることにより、前年比の伸び率が高め/低めに出やすい）の影響で、来月は衣料と医療が高めに、宿泊が低めに出やすい。また、フランスで付加価値税率が引き上げられたことで、物価計数全般に上押し圧力が働く。ただ、こうした統計技術的な要因は別にしても、コア物価は徐々に上昇ペースが縮小しており、インフレ圧力は減退している。当面はデフインフレ基調が続く公算が大きい。

■ユーロ圏の消費者物価（前年比）



出所：Eurostat

■エネルギーを除く消費者物価（前年比）



注：税制変更による影響を除いた指数
 出所：Eurostat

■ユーロ圏の消費者物価（%）

	2013				2013							
	1Q	2Q	3Q	4Q	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
消費者物価（前期比）	0.4	0.1	0.5	-0.1	0.2	0.2	0.2	0.1	0.0	-0.2	0.0	0.1
（前年比）	1.9	1.4	1.3	0.8	1.4	1.6	1.6	1.3	1.1	0.7	0.9	0.8
コア消費者物価（前年比）	1.4	1.1	1.1	0.8	1.2	1.2	1.1	1.1	1.0	0.8	0.9	0.7
食料品（前年比）	2.6	3.0	2.8	1.3	3.2	3.2	3.3	3.0	2.2	1.4	1.1	1.4
アルコール（前年比）	2.6	2.8	2.6	2.7	2.6	2.9	2.7	2.5	2.5	2.7	2.7	2.8
タバコ（前年比）	4.6	3.9	5.2	4.0	3.8	3.7	4.9	5.4	5.4	4.0	4.0	4.0
エネルギー（前年比）	3.2	0.3	0.1	-0.9	-0.2	1.6	1.6	-0.3	-0.9	-1.7	-1.1	0.0

注：消費者物価の前期比は季節調整後。コア消費者物価は食料・アルコール・タバコ・エネルギーを除く。 出所：Eurostat

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。